

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870200676
法人名	社会福祉 亀天会
事業所名	グループホーム亀天福寿苑
所在地	今治市高部字基石山甲661番地1
自己評価作成日	平成21年8月 1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 ※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成21年8月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

* 利用者間の関係作りにも十分注意し、苑内での生活が憩いの場となるよう声掛けや寄り添いのケア、支援を行っている。
* 苑内の行事の際は、ご家族様、地域の方やボランティアの方々の交流を図っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「一日一声運動」というスローガンを掲げ、職員だけでなく管理者やリーダーも利用者全員と笑顔で話すことを実践している。3ユニットの造りは同じであるが、ユニット毎に個性が感じられる。これは利用者の思いや意向をかなえたいと職員が取り組んでいるため、利用者の個性がユニットに反映し雰囲気を作っていると考えられる。母体法人は特別養護老人ホームやケアハウス、居宅介護支援事業所などを運営しているため、利用者の状況に応じて適切な住環境を提供できるシステムがあり、特徴になっている。馴染みの関係は重要であるが、命を守るという面も重要で、その両方を大きな組織で、利用者や家族に安心を提供しようとして取り組んでいるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I.理念に基づく運営
- II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含まれます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含まれます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含まれます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム亀天福寿苑

(ユニット名) 1 階 タンポポ

記入者(管理者)

氏名 大澤 孝市

評価完了日 平成 21年 8月 1 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) いつでも思い起こせるように、タンポポの理念、福寿苑の理念を掲げており、日々のケアに生かせるように実践し取り組んでいる。</p> <p>(外部評価) 運営法人の大きな組織としての理念を踏まえ、ホーム独自の理念を職員と共に作成している。また、ユニットの独自性を大切にするため、ユニットそれぞれに理念を概念化し、日々のケアの目標としている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 地域の祭りや地区運動会などに参加。 苑内の行事には地域の方々に参加していただいています。</p> <p>(外部評価) 管理者は前任者が地域とのつながりを積み重ねてきた実績を大切に引き継ぎ、地区の催し物などには積極的に参加している。近隣住宅と少し離れている立地条件の影響からか、利用者が近所付き合いを行っているとまでは言えない。</p>	管理者やホーム責任者はホームに着任してから1年以上を経過しており、地域特性は把握している。自治会に参加したいとも考えており、積極的な関わりが期待できるが、その際には利用者が近隣者と直接的な付き合いを自然にできるような環境づくりに留意することを望みたい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 運営推進会議を通して相談や研修報告、苑の現状などはなしている。又、地域貢献に向けて話し合いや、活動的な機会を増やしていけるよう取り組んでいる。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 2ヶ月に1回運営推進会議を行い苑内の現状や行事報告を行い参加者からの意見も伺いサービスの向上に努めている。	
			(外部評価) 会議は定期的に行われており、ホームの現状を数値で分析し委員の方々に理解しやすい工夫がなされている。参加者も地域からは民生委員や自治会長だけでなく、近隣住民などにも参加を促し、ホームとの繋がりの場として活用している。	会議の話し合いでも、行事等と一緒に開催することが提案されている。利用者との直接的なふれあいの場となるよう、利用者のお茶会なども会議に盛り込むなど、近隣者がホームに親しむ場として、運営推進会議を活用することを望みたい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 必要に応じて電話連絡や、出かけて情報提供も受け交換している。今後も今以上に連携してサービス向上に努めたい。	
			(外部評価) 管理者の福祉職としてのキャリアを市担当者もよく理解し、地域福祉を協働して推進する良好な関係が築かれており、ホームのことだけでなく、広い視野で福祉向上に取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 利用者個々の状態を把握して声掛けや、見守りで取り組んでいる。(危険を回避するために施錠することもある)	
			(外部評価) 身体拘束の行為について介護保険に示されている内容を職員と確認し、利用者の受ける精神的苦痛などについて共有認識となるよう努めている。利用者の不穏状況によっては一時的に玄関を施錠することもあるが、常習化しないよう取り決めて、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 常に注意を払い虐待のないケアに努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 勉強会にて制度の理解を高めている。必要に応じて相談に乗る考えがある。(現在は対象者はいない)	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 利用者の家族に十分な説明を行っている。個別の配慮や話し合いを行なっている。見学なども行い納得していただいている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) サービスの内容を家族に説明して意見、要望など聞く機会を設けている。運営推進会議の参加の要請と意見、要望を聴かせていただいている。 (外部評価) 管理者や職員は、利用者や家族等に積極的に話しかけて意見を聞き出すことに力を入れている。家族等とのコミュニケーションには心を砕いており、電話連絡の頻度も多く、ホームとして家族に連絡したことは共有しようと連絡簿に記録するなど、ホーム全体で家族等と関わろうと積極的に取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 職員会議で話し合っている。法人で行っている経営会議などで提案している。</p> <p>(外部評価) 職員会議で全員が意見を出せるよう、事前にメモ用紙に記載したものを提出するようにしている。記載した内容は否定しないという取り決めがあるため多くの意見が収集でき、関連な意見交換が行われ、運営に反映されている。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 業務遂行表等で、業務の向上を行っている。その中で、悩みの相談できる体制がある。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 外部研修に参加して、職員会にて報告して質の向上に努めている。勉強会も定期的に行い業務の見直しや、働きやすい環境を作っている。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) 研修会等で他施設との交流で意見交換や情報交換をしている。</p>	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) 安心、納得しながら利用できるような工夫を職員間で話し合っている。入居時ご本人やご家族との面接で要望など聞かせていただいている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居時ご本人やご家族との面接で要望などをよく聞いてサービス内容に反映する。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) ご本人やご家族にとってよい支援であるか相談する。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 日々の生活の中で職員や入居者間で支え合い家族的な関係を築いていく。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会時には苑での生活状況など情報をお伝えしてより良い関係作りに努めている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 外出行事や家族との外出等していただいている。面会時には、ゆっくりお話できる環境を作っている。 (外部評価) ホームでの生活が長くなると、それまでのつながりが薄れていくことが多いので、故郷へのドライブなどを企画し、馴染みの人や場所との関係を想起しやすいように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) お互いにお話している時もあるが、気分により不穏になることがあり、目配りをしている。行事を通じて全体の利用者の関係作りに努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 可能な限り面会にて、声掛けや話しをしている。関係を継続していただけることを大切に思っている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) コミュニケーションをとることで利用者の思いや意向を把握するように努めている。 (外部評価) 職員は、利用者との日常会話などからその人の思いを知るために、入浴ケアや散歩時などに積極的に話しかけ、日々の介護に活かそうと取り組んでいる。聞き得た情報について、職員間で話し合いは持たれているが、全員で共有化が行われているとまでは言えない。	利用者の生活歴やちょっとした嗜好なども貴重な財産であり、サービスの質の向上に不可欠なものである。生活歴の記載は、統一された記録用紙に書き足していくことを望みたい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居時にご家族より生活歴を聞かせていただき、日々の会話の中からこれまでの暮らしの把握に努める。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 日々の生活状況の見守りで現状把握に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 面会時にご家族との話の中で情報を得たり、定期的なカンファレンスで介護計画を日々のケア、観察に努めている。	
			(外部評価) 利用者の暮らしや状態を客観的にモニタリングし、現状を多角的に見るために、日々の状況を記録している介護日誌をリーダーが会議前に整理して、介護計画の作成に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) ユニット内で情報を共有できるように、申し送り帳等活用している。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 法人内での交流を行ったりしながら、よりいっそう自立支援に向けて取り組んでいく。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 定期的に消防訓練をおこなったり、地区行事に参加することで充実感を味わっていただける時間を持っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 入居者それぞれのかかりつけ医を受診している。緊急 時には、救急車を要請している。状態に応じて随時連 絡指示を仰ぎ支援している。	
			(外部評価) 利用者が希望するかかりつけ医を優先しているが、往 診等では近隣の診療所の協力を得ている。運営法人の 病院の協力や総合病院との連携など、適切な医療を受 けられる関係ができています。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 看護職員にて日々健康管理に努めている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 定期的に訪問して情報交換して対応している。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 家族に状態説明して、本人、家族の意向を尊重してい る。主治医への相談、報告をおこない対応して方針を 検討する。	
			(外部評価) 利用者により良い生活環境はどこかという視点で、重 度化や終末期の支援を行っている。早い段階から話し 合いを行い、家族等も選択肢の多いことに安心感を 持っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 看護職員や消防署による指導、訓練を定期的に行い、勉強会に反映している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 3階建ての為、危険を認識して定期的な訓練を行い職員の安全に対する意識の向上に努めている。 (外部評価) ホームは3階建てであるため、災害時の避難に大きな危機感を持っており、定期的な避難訓練や避難経路、連絡体制の確認などが行われ、実践的な対応が職員の身についている。地域との協力体制は話し合いが始まったばかりである。	地域との協力体制には、双方が助け合うという考え方も必要と思われる。ホームが地域の社会資源であるとの提案を地域に示しながら、協力関係を深めていくことを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 言葉かけに気をつけているが完全ではない。個人情報や、記録について取扱いに注意している。 (外部評価) 一人ひとりに配慮のある優しい言葉かけに努めて、徘徊が著しい利用者にも人格を尊重した丁寧な対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 認知症の進行に伴い本人の思いが伝わらないことが見られるがゆっくりと時間をかけて働きかける努力をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一人ひとりのペースを大切に希望を聞いていく努力をしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 散髪を利用したり、馴染みの美容院を利用していたりして、身だしなみに配慮している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 買い物などに同行して楽しみを支援している。食事の片づけなど積極的にしていただき楽しんでいる。	
			(外部評価) 食事は一部配食を利用しているので、食事前にもゆったりとした時間が確保されている。そのため、利用者が持てる力を生かして準備や片付けするのを職員がしっかり支援できる。それぞれの役割が生きがいになるように取り組んでおり、食事が利用者の楽しみになっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 摂取量を個別に確認している。体重の推移を確認している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後口腔ケアを行い感染予防に努めている。介助の必要な方にも支援して清潔を保持している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄記録にて声掛けや、誘導を行い各自のリズムに対応している。	
			(外部評価) 排泄の誘導をしやすいようにトイレを4か所と多く整備し自立支援に取り組んでいる。「何か集中できることを提供したり、安眠を考えることも大きな視点からは排泄支援です」との話し、排泄の自立支援に力を入れていることが理解できる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 水分補給に心がけて散歩や生活リハを取り入れて適度な運動を心がけている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) ゆっくりくつろげるように入浴していただいている。入浴の際は本人の希望に合わせている。	
			(外部評価) 一般浴の浴槽は3方向から介助できるように設えており、全介助の利用者には特殊浴室も整備されているなど、入浴を安心して楽しめるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 利用者個々の生活習慣を大切に休憩や安眠の支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬剤師からの処方用紙はスタッフ全員で確認して綴る。変更などの場合申し送りを徹底する。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 利用者の趣味、趣好を大切に生活の中に取り入れている。ドライブや外食を行い季節感を味わっている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 散歩を取り入れたり、苑外にて外気浴を積極的に取り入れている。	
			(外部評価) 外気浴の重要性は職員全員が理解しており、日ごろから利用者が玄関先の庭に出るよう促している。近くの神社や木陰道などを散歩することも多い。また、運営法人のマイクロバスなどで、利用者の希望にそったドライブや買い物などの外出を支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 食材の買い物に同行したり、駄菓子会にて買物の楽しみを支援している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 毎日家族より電話があり会話を楽しみにしている。ハガキのやり取りの支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 畳コーナーで座ってテレビを見たり、季節の展示物を飾ったりしながら雰囲気を醸し出している。共用空間の清潔に心がけている。	
			(外部評価) 共用空間はゆったりとした設えになっており、大きなテーブルを並べていても圧迫感がなく、L字型に配されたソファも広々としている。どの階からも来島大橋がよく見えて、利用者が心地よく感じる空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 気心の合った仲間との交流が自然に生まれるように支援している。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 馴染みの物を居室に持ってきていただくようお願いしていますが、古いものは置きたくないと言われ使い慣れた家具が少ない。読書の趣味のある方は、本をたくさん持ってきている。	
			(外部評価) 居室に備えられた整理ダンスとベッド以外は、利用者がそれぞれ使い慣れたものを持ち込んでいるため、一人ひとり個性豊かな部屋になっている。お気に入りの写真や絵などを飾っている居室もあり、利用者の居心地良い空間として活用されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 安全安心の生活を目指して目印をつけたり、名前を書いて分かるように環境づくりに努めている。	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870200676
法人名	社会福祉 亀天会
事業所名	グループホーム亀天福寿苑
所在地	今治市高部字基石山甲661番地1
自己評価作成日	平成21年8月 1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載](#)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成21年8月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

*利用者間の関係作りにも十分注意し、苑内での生活が憩いの場となるよう声掛けや寄り添いの支援を行っている。
*苑内の行事の際は、ご家族様、地域の方やボランティアの方々の交流を図っている。 *しまなみ海道がどの階からも見えて素晴らしい景色を楽しむことができる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「一日一声運動」というスローガンを掲げ、職員だけでなく管理者やリーダーも利用者全員と笑顔で話すことを実践している。3ユニットの造りは同じであるが、ユニット毎に個性が感じられる。これは利用者の思いや意向をかなえたいと職員が取り組んでいるため、利用者の個性がユニットに反映し雰囲気を作っていると考えられる。母体法人は特別養護老人ホームやケアハウス、居宅介護支援事業所などを運営しているため、利用者の状況に応じて適切な住環境を提供できるシステムがあり、特徴になっている。馴染みの関係は重要であるが、命を守るという面も重要で、その両方を大きな組織で、利用者や家族に安心を提供しようとする取り組みをしているホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム亀天福寿苑

(ユニット名) 2 階 コスモス

記入者(管理者)

氏名 大澤 孝市

評価完了日 平成 21年 8月 1 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 職員で話し合った理念を基に実践に繋げるように取り組んでいる。</p> <p>(外部評価) 運営法人の大きな組織としての理念を踏まえ、ホーム独自の理念を職員と共に作成している。また、ユニットの独自性を大切にするため、ユニットそれぞれに理念を概念化し、日々のケアの目標としている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 地域の祭りや地区運動会などに参加。 苑内の行事には地域の方々に参加していただいています。</p> <p>(外部評価) 管理者は前任者が地域とのつながりを積み重ねてきた実績を大切に引き継ぎ、地区の催し物などには積極的に参加している。近隣住宅と少し離れている立地条件の影響からか、利用者が近所付き合いを行っているとまでは言えない。</p>	管理者やホーム責任者はホームに着任してから1年以上を経過しており、地域特性は把握している。自治会に参加したいとも考えており、積極的な関わりが期待できるが、その際には利用者が近隣者と直接的な付き合いを自然にできるような環境づくりに留意することを望みたい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 運営推進会議を通して相談や研修報告、苑の現状などはなしている。又、地域貢献に向けて話し合いや、活動的な機会を増やしていけるよう取り組んでいる。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 2ヶ月に1回運営推進会議を行い苑内の現状や行事報告を行い参加者からの意見も伺いサービスの向上に努めている。	
			(外部評価) 会議は定期的に行われており、ホームの現状を数値で分析し委員の方々に理解しやすい工夫がなされている。参加者も地域からは民生委員や自治会長だけでなく、近隣住民などにも参加を促し、ホームとの繋がりの場として活用している。	会議の話し合いでも、行事等と一緒に開催することが提案されている。利用者との直接的なふれあいの場となるよう、利用者とのお茶会なども会議に盛り込むなど、近隣者がホームに親しむ場として、運営推進会議を活用することを望みたい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 必要に応じて電話連絡や、出かけて情報提供も受け交換している。今後も今以上に連携してサービス向上に努めたい。	
			(外部評価) 管理者の福祉職としてのキャリアを市担当者もよく理解し、地域福祉を協働して推進する良好な関係が築かれており、ホームのことだけでなく、広い視野で福祉向上に取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束のないケアを目指して、声掛けや見守りを徹底している。	
			(外部評価) 身体拘束の行為について介護保険に示されている内容を職員と確認し、利用者の受ける精神的苦痛などについて共有認識となるよう努めている。利用者の不穏状況によっては一時的に玄関を施錠することもあるが、常習化しないよう取り決めて、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) マニュアルを作り職員の周知徹底に取り組んでいる。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 勉強会にて制度の理解を高めている。必要に応じて相談に乗る考えがある。(現在は対象者はいない)	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) ご家族に理解、納得していただくように説明をしている。改定時には、説明会を開催して理解をしていただく。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 意見箱を設置して意見を頂けるように取り組んでいる。運営推進会議の意見を反映できるように取り組んでいる。	
			(外部評価) 管理者や職員は、利用者や家族等に積極的に話しかけて意見を聞き出すことに力を入れている。家族等とのコミュニケーションには心を砕いており、電話連絡の頻度も多く、ホームとして家族に連絡したことは共有しようと連絡簿に記録するなど、ホーム全体で家族等と関わろうと積極的に取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 職員会や、ユニット会等で意見を聴くようにしている。</p> <p>(外部評価) 職員会議で全員が意見を出せるよう、事前にメモ用紙に記載したものを提出するようにしている。記載した内容は否定しないという取り決めがあるため多くの意見が収集でき、闊達な意見交換が行われ、運営に反映されている。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 業務遂行表等で、業務の向上を行っている。その中で、悩みの相談できる体制がある。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 外部研修に参加して、職員会にて報告して質の向上に努めている。勉強会も定期的に行い業務の見直しや、働きやすい環境を作っている。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) 研修会等で他施設との交流で意見交換や情報交換をしている。</p>	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) 本人が安心、納得するまで話を聞く努力をしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居時ご本人やご家族との面接で要望などをよく聞いてサービス内容に反映する。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) ご本人やご家族にとってよい支援であるか相談する。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 生活の中で職員や利用者同士で助け合ったりして関係を築いている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会時には苑での生活状況など情報をお伝えしてより良い関係作りに努めている。苑だよりの発行で家族との絆を大切にしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 友人や知人の面会には、個別の話をゆっくりしていただく。又、故郷ドライブの実施などを行っている。 (外部評価) ホームでの生活が長くなると、それまでのつながりが薄れていくことが多いので、故郷へのドライブなどを企画し、馴染みの人や場所との関係を想起しやすいように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士の話し合いが多くあり、かかわりを大切に支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 可能な限り面会にて、声掛けや話しをしている。関係を継続していけることを大切に思っている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 生活歴を踏まえて出来るだけ希望に沿って支援出来るように努めている。 (外部評価) 職員は、利用者との日常会話などからその人の思いを知るために、入浴ケアや散歩時などに積極的に話しかけ、日々の介護に活かそうと取り組んでいる。聞き得た情報について、職員間で話し合いは持たれているが、全員で共有化が行われているとまでは言えない。	利用者の生活歴やちょっとした嗜好なども貴重な財産であり、サービスの質の向上に不可欠なものである。生活歴の記載は、統一された記録用紙に書き足していくことを望みたい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居前の情報を基に日々の会話の中で馴染みの暮らしを見つけてサービスに反映する。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 健康管理や状態観察にて現状把握に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 本人が出来ることや、役割を中心にプランを作り観察に努めている。	
			(外部評価) 利用者の暮らしや状態を客観的にモニタリングし、現状を多角的に見るために、日々の状況を記録している介護日誌をリーダーが会議前に整理して、介護計画の作成に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 生活記録を基にユニット会開催してプランの見直しや確認をしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 家族の状況によって対応の出来ない病院の受診等出来るだけ支援している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) ボランティアの受け入れや学校行事の参加を行っている。他施設との交流や苑主催の行事で地域の参加をいただいている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) 入居者それぞれのかかりつけ医を受診している。緊急 時には、救急車を要請している。状態に応じて随時連 絡指示を仰ぎ支援している。</p> <p>(外部評価) 利用者が希望するかかりつけ医を優先しているが、往 診等では近隣の診療所の協力を得ている。運営法人の 病院の協力や総合病院との連携など、適切な医療を受 けられる関係ができています。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価) 看護職員にて日々健康管理に努めている。訪問看護の 立ち合いをしている。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) 入院後の定期訪問にて主治医や家族との情報交換して いる。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) 家族に状態説明して、本人、家族の意向を尊重してい る。主治医への相談、報告をおこない対応して方針を 検討する。</p> <p>(外部評価) 利用者により良い生活環境はどこかという視点で、重 度化や終末期の支援を行っている。早い段階から話し 合いを行い、家族等も選択肢の多いことに安心感を 持っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 看護職員や消防署による指導、訓練を定期的に行い、勉強会に反映している。マニュアルの作成している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 3階建ての為、危険を認識して定期的な訓練を行い職員の安全に対する意識の向上に努めている。緊急連絡網を作成している。 (外部評価) ホームは3階建てであるため、災害時の避難に大きな危機感を持っており、定期的な避難訓練や避難経路、連絡体制の確認などが行われ、実践的な対応が職員の身についている。地域との協力体制は話し合いが始まったばかりである。	地域との協力体制には、双方が助け合うという考え方も必要と思われる。ホームが地域の社会資源であるとの提案を地域に示しながら、協力関係を深めていくことを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 言葉かけに気をつけているが完全ではない。個人情報や、記録について取扱いに注意している。 (外部評価) 一人ひとりに配慮のある優しい言葉かけに努めて、徘徊が著しい利用者にも人格を尊重した丁寧な対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日常の何気ない会話の中から本人の思いや希望を自己決定できるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 個々の希望を優先してその中から全体のバランスも考慮している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 散髪を利用したり、馴染みの美容院を利用していたりして、身だしなみに配慮している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 買い物などに同行して楽しみを支援している。食事の片づけなど積極的にしていただき楽しんでいる。	
			(外部評価) 食事は一部配食を利用しているので、食事前にもゆったりとした時間が確保されている。そのため、利用者が持てる力を生かして準備や片付けするのを職員がしっかり支援できる。それぞれの役割が生きがいになるように取り組んでおり、食事が利用者の楽しみになっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 摂取量を個別に確認している。体重の推移を確認している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後口腔ケアを行い感染予防に努めている。介助の必要な方にも支援して清潔を保持している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄表にて個人のパターンを把握してトイレ誘導や声掛けしている。(トイレで排泄できるよう支援している)	
			(外部評価) 排泄の誘導をしやすいようにトイレを4か所と多く整備し自立支援に取り組んでいる。「何か集中できることを提供したり、安眠を考えることも大きな視点からは排泄支援です」との話し、排泄の自立支援に力を入れていることが理解できる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 水分補給に心がけて散歩や生活リハを取り入れて適度な運動を心がけている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) ゆっくりくつろげるように入浴していただいている。入浴の際は本人の希望に合わせている。入浴拒否される方には無理をせず声掛けを続ける。時に家族の応援もある。	
			(外部評価) 一般浴の浴槽は3方向から介助できるように設えており、全介助の利用者には特殊浴室も整備されているなど、入浴を安心して楽しめるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 利用者個々の生活習慣を大切に休憩や安眠の支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬剤師からの処方用紙はスタッフ全員で確認して綴る。変更などの場合申し送りを徹底する。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 利用者の趣味、趣好を大切に生活の中に取り入れている。ドライブや外食を行い季節感を味わっている。本人の役割を大切にしている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 散歩を取り入れたり、苑外にて外気浴を積極的に取り入れている。弁当持参でドライブにも出かけている。	
			(外部評価) 外気浴の重要性は職員全員が理解しており、日ごろから利用者が玄関先の庭に出よう促している。近くの神社や木陰道などを散歩することも多い。また、運営法人のマイクロバスなどで、利用者の希望にそったドライブや買い物などの外出を支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) おやつドライブ等で買い物の支援をしている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 手紙のやり取りなど支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 畳コーナーで座ってテレビを見たり、季節の展示物を飾ったりしながら雰囲気を醸し出している。共用空間の清潔に心がけている。	
			(外部評価) 共用空間はゆったりとした設えになっており、大きなテーブルを並べていても圧迫感がなく、L字型に配されたソファも広々としている。どの階からも来島大橋がよく見えて、利用者が心地よく感じる空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 気心の合った仲間との交流が自然に生まれるように支援している。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 馴染みの物を居室に持ってきていただくようお願いしていますが、古いものは置きたくないと言われ使い慣れた家具が少ない。	
			(外部評価) 居室に備えられた整理ダンスとベッド以外は、利用者がそれぞれ使い慣れたものを持ち込んでいるため、一人ひとり個性豊かな部屋になっている。お気に入りの写真や絵などを飾っている居室もあり、利用者の居心地良い空間として活用されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 安全安心の生活を目指して目印をつけたり、名前を書いて分かるように環境づくりに努めている。てすりや建物内バリアフリーになっている。	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870200676
法人名	社会福祉 亀天会
事業所名	グループホーム亀天福寿苑
所在地	今治市高部字基石山甲661番地1
自己評価作成日	平成21年8月 1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 **※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載**

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成21年8月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

苑の行事にご家族や地域のボランティアの参加で顔見知りの関係を築いている。利用者の生活パターンを尊重して役割や楽しみが持てる支援を進めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「一日一声運動」というスローガンを掲げ、職員だけでなく管理者やリーダーも利用者全員と笑顔で話すことを実践している。3ユニットの造りは同じであるが、ユニット毎に個性が感じられる。これは利用者の思いや意向をかなえたいと職員が取り組んでいるため、利用者の個性がユニットに反映し雰囲気を作っていると考えられる。母体法人は特別養護老人ホームやケアハウス、居宅介護支援事業所などを運営しているため、利用者の状況に応じて適切な住環境を提供できるシステムがあり、特徴になっている。馴染みの関係は重要であるが、命を守るという面も重要で、その両方を大きな組織で、利用者や家族に安心を提供しようとする取り組みをしているホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム亀天福寿苑

(ユニット名) 3階 ヒマワリ

記入者(管理者)

氏名 大澤 孝市

評価完了日 平成 21年 8月 1日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) いつでも思い起こせるように、福寿苑の理念を掲げており、日々のケアに生かせるように実践し取り組んでいる。</p> <p>(外部評価) 運営法人の大きな組織としての理念を踏まえ、ホーム独自の理念を職員と共に作成している。また、ユニットの独自性を大切にするため、ユニットそれぞれに理念を概念化し、日々のケアの目標としている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 地域の祭りや地区運動会などに参加。 苑内の行事には地域の方々に参加していただいています。</p> <p>(外部評価) 管理者は前任者が地域とのつながりを積み重ねてきた実績を大切に引き継ぎ、地区の催し物などには積極的に参加している。近隣住宅と少し離れている立地条件の影響からか、利用者が近所付き合いを行っているとまでは言えない。</p>	管理者やホーム責任者はホームに着任してから1年以上を経過しており、地域特性は把握している。自治会に参加したいとも考えており、積極的な関わりが期待できるが、その際には利用者が近隣者と直接的な付き合いを自然にできるような環境づくりに留意することを望みたい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 運営推進会議を通じて苑の現状及び行事、研修などの報告、福祉に関する情報提供しそれに関する意見を参加者からいただき苑の質の向上につなげている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 2ヶ月に1回運営推進会議を行い苑内の現状や行事報告を行い参加者からの意見も伺いサービスの向上に努めている。	
			(外部評価) 会議は定期的に行われており、ホームの現状を数値で分析し委員の方々に理解しやすい工夫がなされている。参加者も地域からは民生委員や自治会長だけでなく、近隣住民などにも参加を促し、ホームとの繋がりの場として活用している。	会議の話し合いでも、行事等と一緒に開催することが提案されている。利用者との直接的なふれあいの場となるよう、利用者とのお茶会なども会議に盛り込むなど、近隣者がホームに親しむ場として、運営推進会議を活用することを望みたい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 必要に応じて電話連絡や、出かけて情報提供も受け交換している。今後も今以上に連携してサービス向上に努めたい。	
			(外部評価) 管理者の福祉職としてのキャリアを市担当者もよく理解し、地域福祉を協働して推進する良好な関係が築かれており、ホームのことだけでなく、広い視野で福祉向上に取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 利用者個々の状態を把握して声掛けや、見守りで取り組んでいる。(危険を回避するために施錠することもある)	
			(外部評価) 身体拘束の行為について介護保険に示されている内容を職員と確認し、利用者の受ける精神的苦痛などについて共有認識となるよう努めている。利用者の不穏状況によっては一時的に玄関を施錠することもあるが、常習化しないよう取り決めて、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 常に注意を払い虐待のないケアに努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 勉強会にて制度の理解を高めている。必要に応じて相談に乗る考えがある。(現在は対象者はいない)	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 利用者の家族に十分な説明を行っている。個別の配慮や話し合いを行なっている。見学なども行い納得していただいている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) サービスの内容を家族に説明して意見、要望など聞く機会を設けている。運営推進会議の参加の要請と意見、要望を聴かせていただいている。 (外部評価) 管理者や職員は、利用者や家族等に積極的に話しかけて意見を聞き出すことに力を入れている。家族等とのコミュニケーションには心を砕いており、電話連絡の頻度も多く、ホームとして家族に連絡したことは共有しようと連絡簿に記録するなど、ホーム全体で家族等と関わろうと積極的に取り組んでいる。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 職員会議で話し合っている。法人で行っている経営会議などで提案している。 (外部評価) 職員会議で全員が意見を出せるよう、事前にメモ用紙に記載したものを提出するようにしている。記載した内容は否定しないという取り決めがあるため多くの意見が収集でき、関連な意見交換が行われ、運営に反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 業務遂行表等で、業務の向上を行っている。その中で、悩みの相談できる体制がある。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 外部研修に参加して、職員会にて報告して質の向上に努めている。勉強会も定期的に行い業務の見直しや、働きやすい環境を作っている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 研修会等で他施設との交流で意見交換や情報交換をしている。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 安心、納得しながら利用できるような工夫を職員間で話し合っている。入居時ご本人やご家族との面接で要望など聞かせていただいている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居時ご本人やご家族との面接で要望などをよく聞いてサービス内容に反映する。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) ご本人やご家族にとってよい支援であるか相談する。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 日々の生活の中で職員や入居者間で支え合い家族的な関係を築いていく。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会時には苑での生活状況など情報をお伝えしてより良い関係作りに努めている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 外出行事や家族との外出等していただいている。面会時には、ゆっくりお話できる環境を作っている。 (外部評価) ホームでの生活が長くなると、それまでのつながりが薄れていくことが多いので、故郷へのドライブなどを企画し、馴染みの人や場所との関係を想起しやすいように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) お互いにお話している時もあるが、気分により不穏になることがあり、目配りをしている。行事を通じて全体の利用者の関係作りに努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 可能な限り面会にて、声掛けや話しをしている。関係を継続していけることを大切に思っている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) コミュニケーションをとることで利用者の思いや意向を把握するように努めている。 (外部評価) 職員は、利用者との日常会話などからその人の思いを知るために、入浴ケアや散歩時などに積極的に話しかけ、日々の介護に活かそうと取り組んでいる。聞き得た情報について、職員間で話し合いは持たれているが、全員で共有化が行われているとまでは言えない。	利用者の生活歴やちょっとした嗜好なども貴重な財産であり、サービスの質の向上に不可欠なものである。生活歴の記載は、統一された記録用紙に書き足していくことを望みたい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居時にご家族より生活歴を聞かせていただき、日々の会話の中からこれまでの暮らしの把握に努める。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 日々の生活状況の見守りで現状把握に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアの あり方について、本人、家族、必要な関係 者と話し合い、それぞれの意見やアイディ アを反映し、現状に即した介護計画を作成 している	(自己評価) 面会時にご家族との話の中で情報を得たり、定期的な カンファレンスで介護計画を日々のケア、観察に努め ている。	
			(外部評価) 利用者の暮らしや状態を客観的にモニタリングし、現 状を多角的に見るために、日々の状況を記録している 介護日誌をリーダーが会議前に整理して、介護計画の 作成に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや 工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を 共有しながら実践や介護計画の見直しに活 かしている	(自己評価) 生活記録よりサービス計画をよりよくしていく。実践 にて職員間の情報共有する中で介護計画の見直しに反 映している。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機 能化 本人や家族の状況、その時々にもまれる ニーズに対応して、既存のサービスに捉わ れない、柔軟な支援やサービスの多機能化 に取り組んでいる	(自己評価) 法人内での交流を行ったりしながら、よりいっそう自 立支援に向けて取り組んでいく。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源 を把握し、本人が心身の力を発揮しながら 安全で豊かな暮らしを楽しむことができる よう支援している	(自己評価) 定期的に消防訓練をおこなったり、地区行事に参加す ることで充実感を味わっていただける時間を持つてい る。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 入居者それぞれのかかりつけ医を受診している。緊急 時には、救急車を要請している。状態に応じて随時連 絡指示を仰ぎ支援している。	
			(外部評価) 利用者が希望するかかりつけ医を優先しているが、往 診等では近隣の診療所の協力を得ている。運営法人の 病院の協力や総合病院との連携など、適切な医療を受 けられる関係ができています。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 身体状況の変化や異常のきずきに、すみやかに看護職 員に報告して指示をあおぎ受診等行っている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院に際して家族、医療機関と話し合い又、入院中も 定期的に訪問して状態の把握に努めている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 家族に状態説明して、本人、家族の意向を尊重してい る。主治医への相談、報告をおこない対応して方針を 検討する。	
			(外部評価) 利用者により良い生活環境はどこかという視点で、重 度化や終末期の支援を行っている。早い段階から話し 合いを行い、家族等も選択肢の多いことに安心感を 持っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 看護職員や消防署による指導、訓練を定期的に行い、勉強会に反映している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 3階建ての為、危険を認識して定期的な訓練を行い職員の安全に対する意識の向上に努めている。 (外部評価) ホームは3階建てであるため、災害時の避難に大きな危機感を持っており、定期的な避難訓練や避難経路、連絡体制の確認などが行われ、実践的な対応が職員の身についている。地域との協力体制は話し合いが始まったばかりである。	地域との協力体制には、双方が助け合うという考え方も必要と思われる。ホームが地域の社会資源であるとの提案を地域に示しながら、協力関係を深めていくことを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 言葉かけに気をつけているが完全ではない。個人情報や、記録について取扱いに注意している。 (外部評価) 一人ひとりに配慮のある優しい言葉かけに努めて、徘徊が著しい利用者にも人格を尊重した丁寧な対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 認知症の進行に伴い本人の思いが伝わらないことが見られるがゆっくりと時間をかけて働きかける努力をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一人ひとりのペースを大切に希望を聞いていく努力をしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 利用者一人ひとりの好みに合わせて決めてもらっている。表情や全身で反応を注意深くみながら希望や好みを把握していく。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 買い物などに同行して楽しみを支援している。食事の片づけなど積極的にしていただき楽しんでいる。	
			(外部評価) 食事は一部配食を利用しているので、食事前にもゆったりとした時間が確保されている。そのため、利用者が持てる力を生かして準備や片付けするのを職員がしっかり支援できる。それぞれの役割が生きがいになるように取り組んでおり、食事が利用者の楽しみになっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 利用者の好みに合わせて献立に反映できるようにしている。季節の食材を取り入れて栄養バランスを考えている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後口腔ケアを行い感染予防に努めている。介助の必要な方にも支援して清潔を保持している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 利用者一人ひとりの排泄パターンを記録してトイレ誘導や自立に向けた支援をしている。	
			(外部評価) 排泄の誘導をしやすくするためにトイレを4か所と多く整備し自立支援に取り組んでいる。「何か集中できることを提供したり、安眠を考えることも大きな視点からは排泄支援です」との話し、排泄の自立支援に力を入れていることが理解できる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 水分補給に心がけて散歩や生活リハを取り入れて適度な運動を心がけている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) ゆっくりくつろげるように入浴していただいている。入浴の際は本人の希望に合わせている。	
			(外部評価) 一般浴の浴槽は3方向から介助できるように設えており、全介助の利用者には特殊浴室も整備されているなど、入浴を安心して楽しめるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 利用者個々の生活習慣を大切に休憩や安眠の支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 一人ひとりの薬について理解を深め状態の変化で主治医に症状や状態の変化を報告している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 日々の暮らしの中で自分の役割を見つけて張りのある生活をしていただく。ドライブや外食で気分転換している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 散歩を取り入れたり、苑外にて外気浴を積極的に取り入れている。	
			(外部評価) 外気浴の重要性は職員全員が理解しており、日ごろから利用者が玄関先の庭に出るよう促している。近くの神社や木陰道などを散歩することも多い。また、運営法人のマイクロバスなどで、利用者の希望にそったドライブや買い物などの外出を支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 食材の買い物に同行したり、駄菓子会にて買物の楽しみを支援している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 手紙や電話の希望がある時には支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 畳コーナーで座ってテレビを見たり、季節の展示物を飾ったりしながら雰囲気を醸し出している。共用空間の清潔に心がけている。	
			(外部評価) 共用空間はゆったりとした設えになっており、大きなテーブルを並べていても圧迫感がなく、L字型に配されたソファも広々としている。どの階からも来島大橋がよく見えて、利用者が心地よく感じる空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 気心の合った仲間との交流が自然に生まれるように支援している。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 馴染みの物を居室に持ってきていただくようお願いしていますが、古いものは置きたくないと言われ使い慣れた家具が少ない。	
			(外部評価) 居室に備えられた整理ダンスとベッド以外は、利用者がそれぞれ使い慣れたものを持ち込んでいるため、一人ひとり個性豊かな部屋になっている。お気に入りの写真や絵などを飾っている居室もあり、利用者の居心地良い空間として活用されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 安全安心の生活を目指して目印をつけたり、名前を書いて分かるように環境づくりに努めている。	